

# 地域通貨の可能性

横浜市立大学 学術情報センター 市民講座

## ～ “ひと” と “まち” の再発見～

地域通貨とは、互いに助けられ、支え合うサービスや行為を時間や点数、地域やグループ独自の紙券などに置き換え、これを「通貨」としてサービスやモノと交換し、循環させるシステムのことをいいます。地域通貨としては米国のイサカアワー、タイムダラー、英国のLETSなどが有名です。我が国でも数年前から各地域で広がりを見せ、現在、42都道府県で134以上の地域通貨があるといわれています。

地域通貨は、経済優先などのために切り捨てられた地域の「人のつながり」や、「心の豊かさ」を取り戻し、まちを再発見し、地域コミュニティを再生しようというねらいから始まったものです。地域経済を活性化したり、デフレを脱却したりする目的で導入することも可能なため、この後の動向には着目すべきポイントが数多くあります。本講義では地域通貨の本質を踏まえ、世界各国や我が国でどのように展開してきているかを学習します。その上で、まちづくりにおける地域通貨の今後の可能性を検討し、それがグローバル社会においてどのような意義をもつか考えていきます。

月日	テーマ	講師
平成14年 11月7日 (木)	エンデの遺言から始まった	河邑 厚徳 NHK放送総局エグゼクティブ プロデューサー
11月14日 (木)	地域通貨ゲーム・ワークショップ	川浦 康至 横浜市立大学 国際文化学部教授
11月21日 (木)	様々に展開する地域通貨	泉 留維 都留文科大学 非常勤講師
11月28日 (木)	地域通貨の現在、そして未来 ～「アースディマナー」実践報告とITを活用した今後の展開～	嵯峨 生馬 (株)日本総合研究所 創発戦略センター 研究員
	電子地域通貨LOVESと市民参加型まちづくり	小林 隆 慶応義塾大学 非常勤講師
12月5日 (木)	グローバル社会のなかでの地域通貨	毛利 勝彦 横浜市立大学 国際文化学部助教授

開催時間 / 午後7時～9時

会場 / 横浜市立大学よこはまアーバンカレッジ(上大岡)

申込方法 / 往復はがき、FAX(045-787-2296)、メール

(netadmin@yokohama-cu.ac.jp)にて

平成14年10月23日(水)必着

受講料 / 無料

定員 / 60人

対象者 / 横浜市内在住・在勤

申込み お問合せ先 /

236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2

横浜市立大学 学術情報センター 情報システム運営室

電話 045-787-2349・2340(月～金)

